

コンプライアンス 基礎コース

【講師】

山中健児

弁護士

石寄・山中総合法律事務所代表パートナー

Contents

コースのねらい	2
---------------	---

第 1 単元 9

単元のねらい	9
--------------	---

第 1 章 コンプライアンスとは何か 10

1-1 今なぜコンプライアンスが求められているか	11
1-2 コンプライアンスの歴史的背景	12
1-3 コンプライアンスとは	14
1-4 単なる「法令遵守」との違い	18
1-5 コンプライアンスの 2 つの意味	21
第 1 章のまとめ	22

第 2 章 企業経営とコンプライアンス 24

2-1 会社法と内部統制システム	25
2-2 コーポレートガバナンスとコンプライアンス	29

2-3 企業の社会的責任（CSR）とコンプライアンス	31
2-4 コンプライアンスの国際規格	34
第2章のまとめ	35

第3章 コンプライアンスの対象 36

3-1 コンプライアンスが対象とするものとは	37
3-2 株主	38
3-2-1 「株主の利益最大化」とその他の利益への配慮	38
3-2-2 株主コンプライアンスの具体化としての法律 ——会社法と金融商品取引法	40
3-2-3 会社法の特徴とポイント	42
3-2-4 金融商品取引法の特徴とポイント	44
3-3 従業員	47
3-3-1 人事労務におけるコンプライアンス	47
3-3-2 労働法の目的	49
3-4 取引先	53
3-4-1 取引先へのコンプライアンス	53
3-4-2 独占禁止法と下請法	54
3-5 顧客（一般消費者）	58
3-5-1 顧客（一般消費者）へのコンプライアンスの重要性	58
3-5-2 食品表示法	59
3-5-3 JAS法	70
3-5-4 食品衛生法	71
3-5-5 健康増進法	71
3-5-6 景品表示法・特定商取引法	72

3-5-7 一般製品のリコール（消費生活用製品安全法、道路運送車両法）	76
3-5-8 不正競争防止法	81
3-5-9 個人情報保護法	83
3-6 地域社会	95
3-7 その他（国際規模でのコンプライアンス）	97
3-7-1 国連グローバル・コンパクト	97
3-7-2 責任投資原則	98
3-7-3 ISO26000	98
第3章のまとめ	99
第4章 コンプライアンスの担い手	100
4-1 コンプライアンスの担い手——3つの視点	101
4-2 経営者としての視点	102
4-3 管理職としての視点	103
4-4 一般従業員としての視点	106
第4章のまとめ	108
自由研究課題	109

第2単元

111

単元のねらい 111

第1章 コンプライアンス体制とリスクマネジメント 112

1-1 リスクはどこ企業でも存在する 113

1-2 大切なのはリスクマネジメント 114

1-3 望ましいリスクマネジメント体制とは 116

1-3-1 内部統制システムに関する2つの法律
——会社法と金融商品取引法 116

1-3-2 コンプライアンス体制としての内部統制システムの構築 117

1-3-3 内部統制の基本的枠組み 118

1-3-4 内部統制の4つの目的 119

1-3-5 内部統制の4つの目的の関係 123

第1章のまとめ 125

第2章 リスクマネジメントの基本 126

2-1 内部統制の6つの基本要素 127

2-2 統制環境 128

2-3 リスクの評価と対応 134

2-3-1 リスクの評価 134

2-3-2 リスクへの対応 137

2-4 統制活動	139
2-4-1 リスクの評価と対応の統合	140
2-4-2 統制活動の方針と手続	140
2-5 情報と伝達	142
2-6 モニタリング	145
2-7 IT（情報技術）への対応	149
2-7-1 IT環境への対応	150
2-7-2 ITの利用及び統制	151
2-8 内部統制の限界	160
第2章のまとめ	161

第3章 企業不祥事が発生する主な原因とは

3-1 不祥事が発生する主な原因とは	163
3-1-1 「人」による「意図的」な不正行為	163
3-1-2 「人」の「不注意」がもたらす事故	164
3-2 不祥事が発生する企業の主な特徴とは	166
3-2-1 異論を差し挟むことができない会社	166
3-2-2 多重的支配の会社	166
3-2-3 業務執行ラインに対するチェックがない若しくは不十分な会社	167
3-2-4 ヒューマンエラーを前提とした対応が不十分な会社	168
3-2-5 労働環境や労働条件の悪い会社	168
3-3 類型別の対応策	171
3-3-1 経営者自らが不正を認識していたケース	171
3-3-2 特定の部門での不正が長年にわたって発覚しなかったケース	172

3-3-3	人為的なミスによる事故が発生してしまったケース	175
3-3-4	労働環境や労働条件に対する不満が原因となっているケース	180
	第3章のまとめ	181
	第4章 リスクをコントロールするためのポイント	182
4-1	リスクマネジメントの実践にあたっての注意点	183
4-1-1	リスクに目をつむってはいけない	183
4-1-2	ときに人は不正をはたらくものであることを理解する	183
4-1-3	内部統制システムを過信しない	185
4-1-4	社会的要請の広がりとのリスクマネジメント	186
4-1-5	リスクマネジメントの実践のためのポイント	188
4-2	想定外のリスクが現実化してしまった場合の対応策	191
4-2-1	想定外のリスクが発覚するきっかけ	191
4-2-2	調査の実施	193
4-2-3	第三者委員会を設置して調査を行うことの意味	195
4-2-4	調査実施にあたっての留意点	197
4-2-5	「情報開示」と「外部への説明」	198
4-2-6	再発防止策	199
	第4章のまとめ	200
	自由研究課題	201
	全体のまとめ	202